

1. 地区大会の余剰金は速やかに地震義援金に廻したい

1. ガバナー会（全国）へも支援要請済みである

1. R I 災害状況報告並びに支援依頼済みである

幹事報告： 小林（満）幹事

- ・新潟いのちの電話より 2004年度歳末、クリスマス支援のお願い
- ・長島山古志村々長より 災害見舞いに対するお礼状が届いています
- ・青少年交換委員長より 2005～06年度一年交換学生募集の期間延長のお知らせ
最終〆切11月末日としますので優秀な学生をご推薦ください
2005～2006年度夏期交換学生募集のお知らせ
申請書〆切2005年1月末日
- ・新潟成人病予防協会より 日本対がん協会新潟県支部維持会員募集依頼について
- ・横山G Bより 中越地震及び7・13水害における各クラブの被害状況調査のお願い
- ・ソレイユ三条勤労青少年ホームより 「水害復興祈念感謝祭」出席のお礼
- ・次週は祝日のため休会です。30日は夜例会です18：30点鐘 三条ロイヤルホテルにて

ニコニコボックス：	16日現在累計 494,000円
-----------	------------------

斎藤正君 大野校長先生ご多忙のなか、お越しいただき卓話有難うございます。心から感謝いたします。

小林満君 //

阿部勝子君 //

中條耕二君 宇賀神栄さんのご入会を心からおよろこび申し上げます。

今村泉君 国際奉仕委員会アイデアの山古志の元気メダカを今日受取ります。大事に育てます。

斉藤興一君 緑と教育、森が生徒に与える現状をよろしく願います。

大野新吉君 大野校長先生ようこそおいで下さいました。自然とのふれ合いがなかなか難しくな
って来ました最近の環境、子供達が自然にふれ、植物、こん虫 e t c の共生を身
を持って身近に体験出来る森が永遠と続きます様、念っております。

早川瀧雄君 大野校長、本日は卓話御苦労様です。

石川友意君 大野校長先生を歓迎して!!

山崎勲君

堀川正幸君 BOXに協力!

笠原壮玄君 大野先生卓話有難うございます。学校の森、素晴らしい自然を愛する造り、それを
可愛いがる心を育てておられるお姿に敬意を持ちます。山古志の村民もそうですが
仏教でも森供養という式典もあります。自然に畏敬と愛情を持つことが人間として
の生涯をかけた心根こころねと思います。是非、永く続くことをお祈り致します。

ロータリー財団ボックス：

本間重満君 皆様の御協力のもとおかげさまで、無事新社屋を竣工出来ました事に感謝すると共に今後共宜しくお願い致します。

卓 話： 日本の教育の現状 三条市立裏館小学校長 大野 源



はじめに

テーマを「日本の教育の現状」としましたが、「日本の教育の課題」と置き換えてもいいと考えます。具体的にどんな課題があるかと申しますと、第一に、いじめ・不登校問題です。こちらは資料を持ってきておりますので後でご覧ください。いじめ・不登校とともに一時世間を騒がせた校内暴力は減少の一途たどっています。第二に学力低下です。学力低下については、本日は触れません。第三は体力低下です。体力低下が起きている現状を認識いただいて、こちらも触れません。第四がADHD（注意欠陥・多動性障害）、LD（学習障害）の出現です。本日はこちらについて触れます。第五が自然体験、社会体験の不足の問題です。こちらも触れます。まだ他にも課題はありますが、以上の五つとします。

ADHD・LDの出現について

ADHD・LDについては、出現率が5パーセントと言われ、300名の学校であれば、15人程度がいることになります。当初日本では、学級の中で様々な動きをするADHD・LDの子どもを、学級担任の指導力不足や家庭のしつけの問題としてとらえていました。しかし、研究が進むうちに、障害をもっている子ども、とのとらえが定着してきております。

具体的には、勉強がいやになったら、教室から出て行く。勉強が分からない理由を教師や親のせいにする。授業中黑板消しをたたいてまわる。教師や親に対し、「てめー」「このやろー」「お前なんか学校から出て行けー」「テメーなんか家から出て行けー」などと頻繁に暴言をはく。自分の周辺にある物を投げつける。等々様々です。また、ADHDの子どもは、人間関係を築くことが苦手で、孤立していることが多く、対応しようと努力するが逃げ出す。等、学級担任だけの対処では大変むずかしいのが現状です。

それではどのような対応が必要なのでしょう。アメリカでは薬の服用が一般的で、5パーセントの子どもは薬を飲んでいます。副作用が心配されますが、現段階では出ていないそうです。まず、ADHDの疑いのある子どもの専門機関での受診を進めたいと考えます。自分の子どもの様子がおかしいことに気づきながらも、どう対応していいか分からず、保護者が放置しているのが現実です。第二に頻繁に教室を出たり、友だちに迷惑をかけたりしている子どもの学級にアシスタントをつけ、子どもに寄り添っていくことが必要だと考えます。幸い、三条市では、本年度から各学校に2名のアシスタント（一日おき午前中）をつけてくださっていますので大助かりです。出来れば午前中毎日、必要人数をつけていただくと学校が落ち着くと考えます。早急に取り組むべき課題と言えます。

自然体験・社会体験の不足について

子どもたちの自然体験・社会体験の不足は深刻です。「そうだなあー」「そうだったのか」と自分の五感を通して物事を実感していくことが少なくなり、言葉として知識を獲得していくことがほ